



腺腫脹し始め、第5日には 37.5°C に発熱した。乳房甚だしく緊張し乳房の内部に数カ所のしこり

を生じ、腋窩リンパ腺が軽度に腫脹し、乳房に痛みを訴える。この日から1日2回ないし3回器械で搾乳した所2日後に腫脹は著しく消失し、乳房全体が柔かになつた。

結 論

以上の如く我々は電動式搾乳器を過去6カ月間使用し、一応満足すべき結果を得た。即ち、乳汁が余つて児の吸啜によつて吸い尽せないような場合、及び未熟児その他で吸啜が不可能な場合に、人乳を得るために利用して有効である。

陥没乳頭を持つものに繰返して応用すれば治癒せしめ得る事がある。

[学 会]

東京女子医科大学々会第79回例会

日 時 昭和31年5月25日(金)午後2時半

場 所 東京女子医大 第一臨床講堂

1. 倍散用色素の配合変化について(Ⅱ)

(薬局) 川口正子

2. 水晶体偏位症の一例

(眼科) 岩瀬節子

私は、最近アラヒノダクチリーの不全型を示した8才の男児の両眼水晶体偏位症に対して、手術的治療を行い、更に種々の臨床検査を行つて知見を得たので報告する。

3. 死後変化高度なる絞殺死体の1鑑定例

(法医) 平形京子 (東監医) 平瀬文子

73才の女性老人死体に於て、剖検により甲状軟骨の骨折と其の附近の小出血を発見した。死後変化が高度に生じているために、頸部の索溝等の外傷及び其他の死因を推定すべき病変は認められなかつた。頸部の骨傷は老人の絞殺死体にあつて統計上大多数に証明されるものであつて、本例は甲状軟骨左側完全骨折を認めたことにより、死因は絞頸による窒息死と決定した。

尙死後経過時間は外景検査に於て顔面部、胸部及び背部に約1.0cm長内外の蛆が附着し、上半身は黒褐色の、下半身は青藍色の真皮を露出している点、内臓諸臓器に多数腐敗気泡を認める点から死後約8日内外を経過しているものと推定される。

4. 電子顕微鏡下に見たコールドパーマによる毛の障害について (法医) 酒井節子、斎藤恵子

コールドパーマ毛髪3例の電子顕微鏡(レプリカ誌

写真を供覧してその所見に対する検討を行つた。倍率は4,500から8,000倍である。コールドパーマ毛髪の表面は毛小皮の破壊と混乱が顕著で天然の毛髪表面構造とは全く相異していた。この所見は枝毛、切断、脱毛という巨視的变化と共にパーマメントソリューションのかなり激しい化学作用の結果と考えられるが、パーマメントウェーブを作る為には、今回電子顕微鏡下に見た様な変化は避けられないものであるかどうかは今後の解明に待たなければならない。

5. 中央検査室臨床化学部の検査状況

(中検化学部) 宮川 熒

昭和29年9月開設以来昭和31年1月末日まで1年3カ月間に当検査室臨床化学部で取扱つた件数は、総計4637件で、血清蛋白24.6%、血糖27.4%、NPN6.5%、尿素N5.5、コレステリン4.5、クロール4.0、無機P3.5、アルカリ性ホスファターゼ3.3、Na、K3.7%、Ca2.2、ビリルビン1.0%、その他1.2%であつた。

検査結果は正常値を示すものが極めて多く、各項中につき正常範囲とその実数を示すと、

	総数	内正常値を示すもの	%
血清総蛋白	404	195	48.2
アルブミン	335	283	78.5
グロブリン	335	280	74.